

遺伝子診断を用いたソラマメ ウイルス病の検定

農林水産研究所

【背景と目的】

ソラマメ栽培では葉が波打ったり、斑紋症状を呈するといったウイルス病被害が県内で発生しています。

本病の伝染方法はウイルス種により異なり、種子伝染、アブラムシ伝染、土壌伝染するため、対策を立てる上でウイルス種を決定することが重要となります。

そこで愛媛県で発生が多い4種のウイルス病を遺伝子診断を用いて検定できるようにしました。

- ・ インゲンマメ黄斑モザイクウイルス(BYMV)
- アブラムシ伝染、低率ではあるが種子伝染
- ・ ソラマメウルトモザイクウイルス(BBWW)
- アブラムシ伝染
- ・ クローバー葉脈黄化ウイルス(CIYVV)
- アブラムシ伝染
- ・ ソラマメ壊疽モザイクウイルス(BBNV)
- 土壌伝染



写真1 BYMVの症状



写真2 BBWWの症状

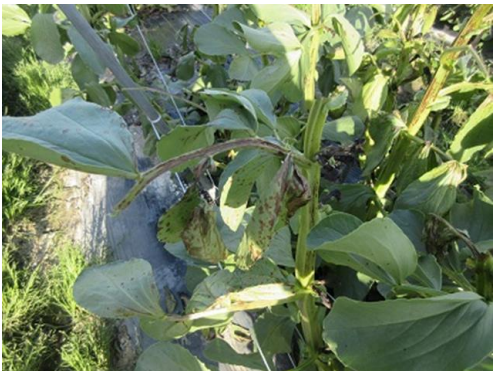


写真3 CIYVVの症状



写真4 BBNVの症状

【結果の概要】

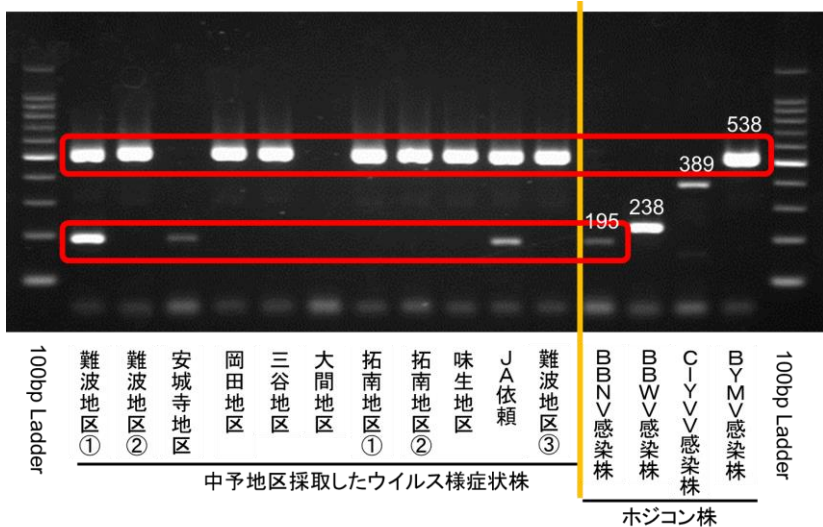


図1 ソラマメウイルス4種のマルチプレックスRT-PCRによる検定

このように、2種以上のウイルス種が重複感染すること多いため検定は重要となります。